

令和7年度(第 64 回)農林水産祭 佐藤 勲^{いさお} 氏が天皇杯(園芸部門)を受賞！

群馬県高崎市の花壇苗(パンジー・ビオラ等)生産者 佐藤 勲 氏が、第 64 回農林水産祭*で県内花き農家としては初めて最高賞となる「天皇杯」を受賞しました。

1 受賞者・部門

受賞者 佐藤 勲 氏
部 門 園芸
出品財 経営(パンジー、ビオラ、カリブラコアほか)



佐藤 勲 氏

2 受賞者の取組経過と経営の状況

佐藤氏は、高崎市内の限られた面積の下で、収益性の高い農業経営を行うことを目指し、大学卒業後北米トップクラスのセル成型苗会社で研修をしました。研修先で学び、発展させた高度な栽培管理技術、園芸店への直接販売、独自に育成したオリジナル品種の商品化、戦略的なマーケティングなどの取組により、花壇苗経営では類を見ない高い所得及び所得率を実現していることが高く評価されました。

第 34 回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクールにて最高賞となる農林水産大臣賞を受賞したことから、令和 7 年度農林水産祭天皇杯等三賞候補者の対象となりました。

*取組の詳細は別紙「農林水産省プレスリリース資料」のとおり



オリジナル品種
パンジー「ドラキュラ」

3 表彰式

日時：令和 7 年 11 月 23 日(日) 11:40～13:00(予定)
場所：明治神宮会館(住所：東京都渋谷区代々木神園町 1-1)



オリジナル品種 パンジー
「ローブ・ドゥ・アントワネット」

※ 農林水産祭とは

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深める等の目的で、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和 37 年から実施されています。毎年 11 月 23 日に明治神宮会館で行われる農林水産祭式典において、天皇杯・内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞の三賞が表彰されます。

令和7年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

独自品種と高度な栽培技術、戦略的なマーケティングで高収益を実現

○氏名又は名称 佐藤 勲

○所 在 地 群馬県高崎市

○出 品 財 経営（パンジー、ビオラ、カリブラコアほか）

○受 賞 理 由

・地域の概要

高崎市は群馬県西南部に位置し、古くから交通の要所、商都として発展し、県内で最も人口の多い都市である。本市における花き生産の歴史は古く、昭和初期からサイネリアなどの花鉢生産が始まり、昭和30～50年代には輪ギクの産地として確立し、現在は平坦地を中心に鉢花・花壇苗の生産が盛んである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

限られた面積の下で、収益性の高い農業経営を行うことを目指し、大学卒業後北米トップクラスのセル成型苗会社で研修した。研修先で学び、発展させた高度な栽培管理技術、園芸店への直接販売、独自に育成したオリジナル品種の商品化、戦略的なマーケティングなどの取組により、花壇苗経営では類を見ない高い所得及び所得率を実現している。

・受賞者の特色

（１）高度な栽培技術と園芸店への直接販売

15年もの歳月をかけ、消費者が購入した後もきれいに咲き続ける品質の高い花壇苗を生産可能な灌水技術を確立した。また、高品質苗の生産に取り組む県内の生産者と連携し、市場を介さずに園芸店へ直接販売する仕組みを構築し、園芸店から高品質苗生産者としての信用を獲得することで、生産者主導の価格設定で全量注文生産を実現している。

（２）オリジナル品種の商品化と戦略的なマーケティング

「世界に1つだけの花づくり」を目指し、独学で育種に取り組み、パンジーのオリジナル品種を上市し、その後も他に類を見ない花色、花型の品種を続々と作出している。また、主要顧客（ファン）を対象に見学会を開催し、参加したインフルエンサーによるSNSを通じた商品の紹介が商品PRに大きく貢献している。さらに、ファンの声を新品種育成にも反映しファンを魅了する新商品を作成することでブランド価値を向上させている。

・普及性と今後の発展方向

県内外から受け入れている研修生に栽培技術を伝授し、全員が新規就農を果たし、花壇苗生産者として強い存在感を示すなど、担い手の育成に貢献している。今後は、新たな市場の開拓に向けて、オリジナル品種の米国への種子輸出や切り花パンジーの商品化を計画している。